

疾患の治療と看護Ⅳ	2年・前期	1単位 45時間	講師 木部和枝
科目カテゴリー	看護の対象理解	科目ナンバリング	32210332

### 1. 授業のねらい・概要

学生が、看護実践を遂行するために、健康障害や疾病の成立過程および疾病のメカニズムと、その看護に必要な科学的根拠を理解することを目的とする。

学生は、疾患の治療と看護Ⅳにおいて、呼吸器疾患とその治療および看護について理解する。

### 2. 学修の到達目標

1. 肺腫瘍と気胸の定義、種類、原因、症状、治療、予後について述べるができる。(D-2)
2. 肺がん・気胸患者に対する適切・的確な看護を説明できる。(D-2)
3. 特発性間質性肺炎・気管支喘息・気管支拡張症の定義、原因、症状、治療、予後について述べるができる。(D-2)
4. 慢性閉塞性肺疾患・肺循環疾患の定義、種類、原因、症状、治療、予後について述べるができる。(D-2)
5. 慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息患者に対する適切・的確な看護を説明できる。(D-2)
6. 呼吸不全の定義、種類、原因、症状、治療、予後について述べるができる。(D-2)
7. 肺炎・間質性肺炎・急性呼吸窮迫症候群患者に対する適切・的確な看護を説明できる。(D-2)
8. 呼吸リハビリテーションの方法や患者指導内容を説明できる。(D-2)

### 3. 授業の進め方

テキストに基づく資料を用いた講義を中心に進める。

#### 【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして Googleform を用いた事前学習とグループ内での対話を行う。

#### 【ICT 活用の有無】

ICT 活用の実施：ナーシングチャンネルの動画視聴，Google Classroom，Googlefoam 等による，学習課題や学習教材の提示・配信，学習課題の提出等。

### 4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	肺腫瘍，気胸：診断と治療 P188～201，205～208	講義	予習：授業内容に示したテキスト該当ページを読み，わからない言葉を調べる。 復習：範囲の国試問題を 5 問以上解いて，重要事項を理解・把握する。	木部和枝
2	肺がん患者の看護 P221～225，325～334 自然気胸患者の看護 P334～336 手術を受ける患者の看護 P267～284	講義	予習：Google foam に送られた事前課題について，分からない言葉を調べる。 復習：肺がん・手術を受ける患者に対する看護のポイントをまとめる。	木部
3	特発性間質性肺炎・気管支喘息・気管支拡張症：診断	講義	予習：Google foam に送られた事前課題について，わからない言葉を調べる。復習：範囲	木部

	と治療 P156～159, 166～172		の国試問題を 5 問以上解いて、重要事項を理解・把握する。	
4	慢性閉塞性肺疾患・肺循環疾患：診断と治療 P172～181	講義	予習：Google foam に送られた事前課題について、分からない言葉を調べる。復習：範囲の国試問題を 5 問以上解いて、重要事項を理解・把握する。	木部
5	慢性閉塞性肺疾患患者の看護 P216～221, 305～317 気管支喘息患者の看護 P299～305 吸入療法を受ける患者の看護 P240～242	講義	予習：Google foam に送られた事前課題について分からない言葉を調べる。復習：慢性閉塞性肺疾患患者に対する看護のポイントをまとめる。	木部
6	呼吸不全：診断と治療 P181～185	講義	予習：Google foam に送られた事前課題について、分からない言葉を調べる。復習：範囲の国試問題を 5 問以上解いて、重要事項を理解・把握する。	木部
7	肺炎・間質性肺炎患者の看護 P284～291 急性呼吸窮迫症候群患者の看護 P320～322 人工呼吸療法を受ける患者の看護 P246～250	講義	予習：Google foam に送られた事前課題について、分からない言葉を調べる。復習：肺炎患者に対する看護のポイントをまとめる。	木部
8	呼吸リハビリテーション P108～110 定期試験	講義 試験	予習：Google foam に送られた事前課題について、分からない言葉を調べる。 復習：試験で間違ったところを復習する	木部

## 5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は 3 分の 2 以上出席した者）86%，小テスト 14%，平常点で総合的に評価する。

成績評価は、「2. 学修の到達目標」に示した評価観点ごとに、ルーブリック評価を基に、5 段階評価で採点する。尚ルーブリック評価に関する詳細は、第 1 回講義内で説明する。

定期試験の出題範囲および出題方法等は、事前に口頭で提示する。

課題で示す範囲の小テストを 1～7 回の各授業の途中に行う（2 点 x 7 回 = 14 点）。

## 6. テキスト・参考文献

テキスト：川村雅文他（2025） 系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 医学書院

## 7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

授業計画の 1 回の授業範囲および事前事後学修（学修課題）について、最低 90 分の予習および最低 90 分の復習を行うこと。

「人体の構造と機能」の授業で学習した知識を必要とする。

## 8. 受講上の留意事項

授業中の私語や授業に関連しない行動は、平常点として評価対象とする。

授業時間開始後に、教室の入室および退出を無断で行うことは慎むこと。

## 9. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験終了後、口頭、掲示またはメールで説明する。

講義時間以外に、随時、メールで問い合わせを受け付ける。

**10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。

**11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施されます。**

医療機関における看護師としての実務経験を活かして、講義を行う。